

事前課題3

基礎研修（演習）  
「サービス提供プロセスの管理の実践 事例研究Ⅰ」

◆事例研究Ⅰの概要

事例のご本人は、「高橋みかさん」現在18歳のダウン症の女性です。

家族は、父親・母親・姉の4人家族です。

現在、「高等特別支援学校」を3月に卒業し、4月より地元の生活介護事業所「すまいるA」の利用を開始する予定になっています。

母親は、出生後不安もありながらも早くから県のダウン症協会にも入り同じ悩みを持つお母さん方との良好な関係も築きながら明るく本人に接し育ててきました。

保育園では、同じ年の仲間との関係を嫌がることが多く保育士と1対1で過ごすことが多かったようです。

小学校は、支援学級で過ごしました。なかなか周りにもついていけず、苦手な事や嫌なことがある時は、泣き続けていたりトイレにこもってしまうこともありましたが、学年が上がるにつれて持ち前の明るさが発揮され、仲間との関係性を多くもてるようになる学校との時間割に合わせて生活できるようになりました。

また休むことなく学校に通うことができていました。

中学校からは、特別支援学校に通いました。同時期から母親が働くことになり放課後デイサービス（わくわく）の利用も開始しました。

自由なところがあり何事も自分のペースを優先する一面がみられるようになってきたようです。

その後、「高等特別支援学校」に通うようになります。始めは、市バスにて学校に通っていましたが、2年生の夏、家族でお祭りに出かけている際に段差に気づかず転倒してしまい左膝前十字靭帯断裂の怪我をしてしまいました。その後手術をし、医師からも「もう大丈夫」との話がありますが、本人は左足をかばいながら歩くようになり、市バスではなく母親の送迎になってしまいました。

家族で出かけた際に車椅子を貸してくれるところでは本人が「足が痛い」と言い車椅子に乗るようになっています。

天真爛漫なところや自分の意思ははっきりみせ強情なところもあり先生のアドバ

イスを聞き入れないこともあるようです。

高校生活内での実習では、就労継続支援（B型）にも行き作業を行いました。本人の好きなクッキーづくり作業も行いましたが、本人が「大変だった」と話していました。

卒業後の進路先で母親は、その就労継続支援（B型）事業所の利用を希望していました。本人は嫌がっていたので何度も家族で話し合いをしたようですが、最終的に本人が「行きたい」と言った生活介護事業所すまいるAに事業所を決めました。

すまいるAのサービス管理責任者山本おさむさんと利用開始にあたり本人との面接も行いました。

非常に愛想よく、聞くことに対しては「はい」「はい」「頑張ります」と話していました。

「送迎車両もありますかどうしますか」と本人に聞くと「お母さん」と答えました。母親は、送迎サービスを使ってほしいようです。

とりあえず、朝は母親が送り、帰りは事業所の送迎を利用することにしました。

以上のような設定で、サービス管理責任者として、現在ある情報・状況を分析して個別支援計画の原案を立案します。

ご本人の意向と共に、取り巻く環境にも考慮しながら、形式的な個別支援計画にとどまらず、事業所の作業体系、作業内容の検討等も含みながら幅広く検討してください。

また、計画作成のプロセスを大切にして、「どのような支援をしていくのか」より具体的な内容になるようにしてください。

サービス管理責任者としての役割についても考えながら事例研究を行うことで事業所内の今後の働き方にも繋がってくると思います。